

式 辞

寒さも和らぎ、うららかな春の香りが、この宇納間の里を優しく包み込む季節となりました。この北郷の地には、自然を敬い、互いを慈しみ合う清らかな人々の心が、今も変わらず流れています。その中で皆さんは、この九年間、あるいは十一年間、仲間と共に笑い、時には涙しながら歩んできました。その日々の足跡は、やがて皆さんの「心の根っこ」となりました。これから歩む道が遠く離れていても、その根っこは皆さんの心に寄り添い、勇気を与え続けることでしょう。

本日、ここに美郷町副町長 藤本茂 様、ならびに本校学校運営協議会の皆さまをはじめ、多くのご来賓、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、十二名の卒業生の門出を祝えますことに、心より感謝申し上げます。

九年生の皆さん、卒業おめでとう。今、皆さんどのような思い出が去来しているでしょうか。

振り返れば、皆さんが見せてくれた姿は、常に私たちの誇りでした。運動会では、大会を成功させるために自ら創意工夫を凝らして動画を作成し、本番での躍動感あふれるパフォーマンスで会場を一つにしました。保護者の皆さんとの和気あいあいとした団技の光景は、地域の絆そのものでした。

学園祭で披露された「完全オリジナル劇」には、九年間の歩みと母校への深い愛が凝縮されており、その完成度の高さと皆さんの団結力に、私は言葉にできないほどに感激しました

また、「みさとみらいワークランド」などの場では、幼稚園生や低学年の子どもたちの手を優しく引き、常に自分のことよりも周りのために行動する心遣いを示してくれたことに感謝しています。

これから新しいステージへと羽ばたく皆さんに、人生の道標として「自立」と「自律」という二つの言葉を贈ります。

まず、「自立」とは「行動力」です。これは、誰かに指示されるのを待つのではなく、自らの意思で一步を踏み出す力を指します。宿題に取り掛かる、約束を守る、困っている人に手を差し伸べる。そうした当たり前のことを自分の足で行う姿勢が「自立」です。

そして、それ以上に皆さんに意識してほしいのが、「自律」という名の「選択力」です。「自律」とは、自分の感情や目先の楽しさに流されることなく、「どう動くべきか」を自分で決める力です。

人生には、楽な道と、努力が必要な険しい道が並んでいることがあります。その時、どちらを選ぶのか。一時の感情に流されず、自分にとって、そして社会にとって「よりよい道」はどちらかを問い、選び続ける力が「自律」なのです。

日々の生活の中で行う小さな決断の積み重ねこそが、将来の大きな決断を支える揺るぎない自信と責任感へと繋がっていきます。自ら一步を踏み出し（自立）、自ら道を選ぶ（自律）。この積み重ねが、変化の激しいこれからの社会を生き抜く確かな土台となるのです。

実は、校長である私自身、まだこの「自律」が十分ではないと感じることがあります。目先の楽な選択に心が揺れ、自らの選択の甘さを悔いることも少なくありません。だからこそ、多様な価値観が渦巻く世界へ羽ばたいていく皆さんには、この「自律して生きること」を何より大切にしてほしいと、一人の先輩として心から願っています。

皆さんがこの北郷の地を離れることは、私たちにとって寂しさが募る出来事です。しかし、皆さんは更なる成長のために、新たなステージへと駆け上っていかねばなりません。

もし、高校を卒業し、大学や仕事という広い世界を経験した後に、皆さんの心の中に「この北郷の地に戻る」という選択肢が浮かんだなら、これほど嬉しいことはありません。ぜひ、戻ってきてください。そして、この美郷北義務教育学校を、笑顔あふれる、希望に満ちた学校に皆さんの手でして欲しい。それが私の、そしてこの地域の切なる願いです。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

立派に、本当に立派に成長されたお子様の姿に、これまでのご苦勞が報われる思いではないでしょうか。これまで本校の教育活動に寄せてくださった多大なるご理解とご協力に、深く感謝いたします。私たちは、これからもお子様の更なる飛躍を、熱い心で、いつでも、いつまでも応援し続けています。

最後になりましたが、九年生の皆さんの優しさやこの学校への愛情は、すべての子どもたちや先生方にしっかりと届いています。九年間本当にありがとう。

皆さんの歩む道が、光に満ちたものであることを心から祈念し、式辞といたします。

令和八年三月十六日

美郷町立美郷北義務教育学校 校長 石田 俊司